普天間飛行場の歴史的経緯

1945年	4月1日	太平洋戦争時、米軍の沖縄本島上陸により沖縄戦開始
	6月頃	米軍に土地を接収され、本土決戦に備えて普天間飛行場建設開始
	6月23日	沖縄戦での組織的戦闘が終了
1962年		市制施行の年、米軍が基地のフェンス設置開始
1972年	5月15日	沖縄の本土復帰
1975年		市の人口が5万人を超える
1978年		ハンビー飛行場の返還に伴い、その基地機能が普天間飛行場へ移され、現在のような運用形態へ

SACO合意から20年…
進まぬ普天間飛行場返還問題

◆これまでの経緯

1996年12月	「ＳＡＣＯ最終報告」で「今後5年乃至7年以内に、十分な代替施設が完成し運用可能になった後、普天間飛行場を返還する」と合意
2004年8月	沖縄国際大学へ米軍ヘリが墜落
2006年5月	在日米軍再編協議最終報告（日米ロードマップ）において、普天間飛行場代替施設の建設は2014年までの完成を目標とすることを合意
2011年6月	「2+2」において、日米ロードマップで合意された、普天間飛行場移設・移転の2014年の目標を見直し、出来る限り早く完了することを確認
2012年10月	MV-22 オスプレイの配備が開始（2013年9月配備完了）
2013年4月	日米両政府による統合計画において、普天間飛行場の「2022年度またはその後」の返還時期を公表
2014年2月	沖縄県知事、宜野湾市長連名で、普天間飛行場の5年以内の運用停止、早期返還などを政府に要請
2014年2月	第1回普天間飛行場負担軽減推進会議が開催
2014年8月	普天間飛行場所属のＫＣ-130空中給油機全15機の岩国飛行場への移駐完了
2015年12月	日米共同報道発表において、普天間飛行場東側の土地（約4ha）の返還に向けた作業を加速することを確認